

おじいちゃんありがとう

鶏鳴小学校 六年 西山 櫻田 六

僕は、おじいちゃんが作ってくれているお米を毎日食べて学校に行きます。

僕は、おじいちゃんのお米が一番おいしい。できたてアツアツご飯を一口ほおばると、「

ふっ、ふっ、ふっ」と口の中でおどろたすふっ、とお米の匂いがたまらない。こんなお

いしいご飯をいただくことができるのは、おじいちゃんが、お米を作ってくれているからで

す。

今年の夏、おじいちゃんの家泊まりに行きました。僕は自分が食べるお米の姿を見た

くなつたので、おじいちゃんに田んぼに連れて行ってもらうた。僕はとても驚いた。僕の

目の前には、黄金色の稲穂が一面に広がった。僕はおじいちゃんの手をきゅっ、と握りしめ、

「おじいちゃん、このお米全部おじいちゃん

が作りよると」と、質問した。おじいちゃん

人食べてほしいから、頑張って作りた  
い」とニコニコしながら答えてくれた。僕は  
胸が「ぎゅっ」となった。おじいちゃんは今  
年で七十九才、体力も衰えているはずなのに  
僕のために大切に育ててくれているんだ。僕  
は「幸せだな」と心の底から思った。  
「おじいちゃん、僕はおじいちゃんのお米が  
一番好きだよ、こっぴどく、大事に育ててく  
れてありがとう」と気持ちを伝えた。

その時、僕のとなりで、おじいちゃんが目か  
り涙がこぼれていた。

今年は、僕も稲刈りの手伝いをしてみたい  
と思った。お米を作る人の苦労を知り、お米  
のありがたさを自分だけではなく、他の人に  
も伝えたいと思ったからです。いつか笑顔で  
「たくさん食べる、お米はたくさんあるから  
な」と、お米を持ってきてくれるおじいちゃん、  
僕が毎日モリモリたくさん食べられるの  
は、おじいちゃんのおかげです。心の底から  
「ありがとう」と贈ります。